

をなして深度を増すのが常で、之を前磯段丘 Shelf terrace と稱する。この段丘は嵐のためには生滅移動するのが常である。海蝕臺地上には稍薄き砂又は生物の遺骸などの堆積をつくるが之を表積層 Vencer といふ。表積層の前方は深度大となり、比較的に靜穩なる堆積が行はれ極めて緩傾斜を保ちつゝ外洋に向ひ、その末端は急斜して深海に下る部分があつて、之を海底段丘 Continental terrace と稱し、これが堆積せる盤面を海棚 Continental Shelf と言ふのである。海棚は約二百米の深度を有する部分であつて、海岸より海棚に至る間の地帯は海と人類との關係交渉の最も大なる區域である。

一時的港市に就て

西 龜 正 夫

五、結論、若し陸塊が長へに安定に存在するならば、間斷なき海蝕作用は全陸塊を浸蝕し盡して之を海蝕臺地となし終はり、従つて海岸發達の最後のステーチに於ては上述の諸種の海岸地形は全く消滅し海蝕臺地のみが廣く發達してくる。緩慢なる隆起作用が行はれるときは單調なる臺地は漸次に陸地として現出し、こゝに海蝕進平原 Marine Penepiane を形成する。準平原の成因につき古き英國流の學者が海蝕を重視したのもこの點にあるのであつて、土地の隆起につれて河流は漸次に若き谷を浸蝕しつゝ第二の輪廻に入る。而して米國流の學者は河蝕の更に偉大なるを認めてゐるのである。(完)

海岸に於ける水陸交通の結節點として發達する港市は、其發生が漸次的で生命の比較的長い

のを普通とするが、又時としては突然的に發生若くは衰滅する事もある。而して突然的に發生

して比較的短時日間存続し、再び突然的に衰滅するものを一時的港市といふのである。

元來一般の聚落に就て其存続性を考へて見ると、永續的・間歇的・一時的の三種に分類することが出来る。聚落の一種たる港市にも亦この三種あること勿論で、譬口の様に冬に結氷の爲め寂れる港市は、一年週期の間歇性港市である。

嘗て私が某誌で聚落の研究を發表した時に、一時的聚落の例として岡山縣に出来たゴロト大師を説明したが、本篇に於ては世界大戰の爲めに起つた一時的港市を記述しようと思ふ、それは佛國のブレスト港である。

抑も港市の發達には少くとも七個の條件が必要である。一、風波の防衛、二、適當の水深、三、碇泊水面、四、埠頭、五、市街建設地、六、陸の後方への交通線、七、後地がこれである。大戰前に於てブレストはこれ等の條件の三つ丈けを備へて居た。即ち十四哩も入り込んだ深い灣の奥にあるから、風波の防衛は充分であり、碇泊水面も相當に廣く、埠頭を造る場所もあつ

た。併し他の四條件に就ては誠に貧弱で、水深は充分で大船を容れ難く、市街を建設する様な海岸の平地は殆んど無く、陸上交通線としての只一本の鐵道は、急勾配と屈曲で不完全なものであり、又後背地としてはほんのブリタニー半島のみであつた。何となれば佛國の中心都會たるパリへはあまりに遠く、且そこには別にアイブルやセルブルの港があるし、南方ロアル河の平野には、ナントの港があるから、ブレストはこれ等の重要な平野を後背地とすることが出来なかつたのである。

然るに世界大戰が起つて、アメリカが參戦すると、其大兵を佛國に上陸させることになつたが、當時他の港は悉く英國其他どの運輸に忙殺されて、極度に其能率を發揮して居たから、到底其要求を容れる餘地が無いので、佛國政府はこゝにブレスト港を改造することに決したのである。特にブレストが選定されたのは、アメリカから云つて一番近いといふ點にある。當時獨逸潜水艦が大に活躍して居たから、たゞの一哩

でも航路を短くすることは、其危険から逃れる爲めに非常に重要であつたのである。即ち位置がブレストの發展を促したのである。

數千の兵士とあらゆる文明の機械とが直ちに活動を開始して、浚渫船は港と水道を深くし、コンクリートの岸壁が築造され、倉庫、起重機等が設備された。市街は後方の高原地の方に建設され、海岸から自動車が盛に通ふ様になつた。鐵道は改良されて内地への運輸も至便になつた。

かくてブレストは恐らくは世界最大の港となつた。一ヶ月平均三十萬人の上陸、それに伴ふ夥しい食物・銃砲・彈藥・野戰材料の輸入は蓋し量に於て世界の何處の港にも勝つて居る。それはブレストが、北佛の戰線全部を後地とすることが出来たからである。随つて市街も目覺ましく發展して、人口は極めて急激に増加した。

けれども榮華は短かつた。僅々二年足らずでアメリカ兵は悉く引き上げた。そこでブレストの後地は又元のブリタニー半島に局限された。

その爲めに他の六要素は充分であるけれども、港市は急に衰滅し、市街はカラ空きとなり、廣い埠頭は徒らに無聊を啣つて居る。誠に短かい運命の港市であつた。

大戰の影響としては、我國にも此種の例が少くなかつた。岡山縣の神島の如き。廣島縣の木ノ江港の如き、何れも突然的に生滅した。併し其原因は色々であつて、必ずしも後地の關係ばかりでは無い。

松 島 (圖版説明)

松島八百八島が第三紀の凝灰岩類より成つて浸蝕と斷裂とによつて作られた事は周知のことである。海蝕の結果として隧道が出来たり窪窪 出来たりする次の狀態は島の分離であり、最後には小嶼の消失である。然し島の數は決して減じない。それは小さな岬角が離れて小島を成すからだ。それは日本案内記にチャンパレンが書いて居る。それよりも面白いのは松島の中の大島——それは島嶼中の最高點大高森をのせて居る——宮戸島の北側に枝狀を成したフキヨルドに似た入込みは溺れ谷であつてよくこの地域の沈降を指示するといふことで、之は松島の成因の第三なるべきものである。又宮古島にある石器時代の遺跡は甚だ面白いもので人體が數十竈て居ることで見るに貝塚は埋葬場であるといふことになる。